

新 た な 魅 々  
岳 南 中 学 校  
一 何 し て 遊 ぶ  
ぶ と き は 、 こ の 言 葉 か ら ス タ ー ト だ 。 こ こ は  
屋 久 島 だ 、 遊 ぶ こ ろ か な い 、 だ か ら 炎 天 下  
の 中 で ひ た す ら 歩 く 何 し よ う と 考 え な か ら 。  
夏 に 小 学 生 は 真 っ 黒 、 毎 日 の よ う に 海 や 川 に  
泳 ぎ に 行 く 、 も う 丸 焦 げ 。 島 で 育 っ た か ら か  
私 の 小 学 校 だ け な の か み ん な た く ま し い 。 自  
然 い っ ぱ い の 島 な ら も ち ろ ん 小 学 校 の 行 事 も  
自 然 い っ ぱ い 。 泳 い だ り 、 カ ヌ ー 乗 っ た り 、  
山 に 登 っ た り 、 遠 足 も 大 川 の 滝 ま で 四 、 一 キ  
ロ の 遠 足 、 高 学 年 に な っ て い く う ち に 一 長 す  
ぎ で は な い か 一 と 不 満 か あ っ た 。 援 業 中 で さ  
え 屋 久 島 の 地 杉 の 机 と 椅 子 に 身 を 包 み 毎 日 勉  
強 に 励 ん で い る 。 嫌 か っ て い る わ け で は な い ！  
屋 久 島 の 自 然 に 慣 れ て し ま っ て い る だ け だ 。  
で も 屋 久 島 に は 、 十 三 年 間 住 ん で い た 私 で も  
気 づ く こ と か だ り だ っ た 魅 か か あ っ た 。 そ  
れ は コ ン だ 。 日 本 で 千 六 百 種 類 の コ ン か 生 息

ルは格別には嬉しさと喜びがあり、暑い時には  
 思った他にとても美しい緑の中で見るニヤヤサ  
 悪い人は視力から上がって行くのではな  
 だ。だからこの景色を見れば私は一気に目  
 開く。なぜなら緑を見ると目が良くなるから  
 養であり、目が悪い人は、遠くの山を見ろと  
 気持ちの良いい風も吹いていた。緑は、目の保  
 もう一目見た瞬間一望無垠であつた。とても  
 ら後ろについていきながら周りを見渡した。  
 った。班になつてカイドさんの話を聞きなが  
 触れられる、楽しかった。この感情は全然な  
 特大イベントである。申し訳ないから自然に  
 クラスとも馴染められていない私にとつては  
 た白谷雲水峡である。中学一年生まだうま  
 となつたのはあの、もののけ姫の舞台となつ  
 におかコケの魅かに気が付きたきつかけの場所  
 に生えているコケとは大違いだ。  
 と思つてしまふかもしれない、でもそこら辺  
 種類のコケか生息している。コケなんて  
 している。そのうち屋久島では六百から七百

ひんやりして、抱き心地最高のヒヤミヤミに  
抱き着き休憩をした。トトロに会えた。  
やはり一番松谷の心惹かれたのか、コケカ  
た。予想以上にフワフワしていた。触つたら濡  
れていったのでひんやりしていた。また、こ  
も瑞々しそうなたぐささんの水を合人だコケな  
ひめあり、でも松谷見れたのはさくわすれだ。  
もつと見た。触りたい、贅沢をいうなら持  
つて帰りた。こりえほほかの人もなるだろ  
う。コケの減少していつたらひうしようと思  
つたので、松谷またいつかとう一度白谷雲木  
峡に行きた。と思った。知らない。た屋久島  
とコケの癖かにはつた。もつとコケのニコ  
ミ知りた。と思えたのかコケこはじめて出  
えた体験だ。